

三大学学生交流における SKYPE 討論を終えて

歯学部 5 年 大竹 開、片山 卓也、中田 雅昭、田原 広子、福村 優華

昭和大学と岩手医科大学と北海道医療大学の 3 大学間の 5 年生の学生で、「高齢者と関わる施設実習や地域医療についての実習」に関する SKYPE を用いた討論会を行いました。昨年の 7 月 29 日に日本歯科医学教育学会学術大会におけるポスター発表を行ったうえで、再び 3 大学間の交流の機会を設けていただき、意見交換をしました。これは、文部科学省大学関連携共同教育推進事業「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の一環です。

私達は 1~4 年までの基礎実習や地域連携の実習の内容に加え、5 年生での高齢者歯科外来、施設実習、訪問歯科実習、さらには附属病院での実習や、PBL の実習の内容や学んだこと、感想について発表しました。特に、学部連携の PBL 実習は昭和大学が独自に行っていることでもあるため、2 大学から関連した質問や、意見が寄せられました。

今回の発表を通して、5 年生の臨床参加型実習で、4 年生までの基礎実習で学んできたことや、その目的を再確認すると同時に、実際に患者さんと接することで今まで学習したことの知識と理解を深めることができました。また、他大学が取り入れる教育プログラムを共有することで、俯瞰した考えを持つことを学びました。

他大学の超高齢社会に対する取り組みについての発表を聞き、それぞれの大学が行っている臨床実習の特色や、高齢者歯科実習の概要を学ぶことができ、良い刺激となりました。

昭和大学の代表として、SKYPE による討論会に参加し意見を交わすという貴重な経験をさせていただき、自身の成長につながったと同時に大きな自信となりました。

最後になりましたが、今回このような機会を設けていただきました、佐藤教授をはじめご指導いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

